

- ① 二酸化炭素濃度と感染の因果関係有りとの前提で、外気が導入されにくい地下鉄車内での感染対策について専門家で議論し早急に講じるべきだが、専門家の知見は地下鉄は安心とのことでよいのか、そうでないなら二酸化炭素濃度の基準値を設けるべきではないか、政府の見解を示してください。

(答)

1 二酸化炭素濃度については、新型コロナの感染リスクの指標としては国際的にも未だ知見が蓄積されていないことから、感染対策として基準を設けることは困難と考えている。

2 なお、昨年末に産業技術総合研究所より公表された「地下鉄における混雑時の運転状況を模した車内CO<sub>2</sub>濃度の計測と換気の評価」におけるCO<sub>2</sub>濃度測定結果（混雑時の運転状況を模して窓閉状態で約9分間走行の場合、約3,200ppmまで上昇）について健康リスク評価学が専門の近畿大学医学部東准教授にうかがったところ、一時的に濃度が上昇しても健康上直ちに影響のある数値ではないとの見解を得ている。

3 いずれにしても鉄道車両内における感染対策については、これまで、車内の換気その他、マスクの着用、車内での会話を控える、混雑を避けた時間帯の利用について乗客に呼びかける等の対策を行うとともに、鉄道事業者においても車内アナウンス等により理解・協力を求めているところであり、引き続き、車内換気が的確に行われるよう鉄道事業者に働きかけてまいりたい。